

式 辞

飯野山の山桜、鳥のさえずり、頬を撫でる風、それらすべてに春の息吹が感じられる今日の佳き日、PTA会長様を始め、多くの保護者の皆様のご臨席のもと、令和四年度香川県立飯山高等学校入学式を挙行できますことは、私共のこの上ない喜びであり、誠に嬉しく存じます。本校を代表し、深く感謝申し上げます。

先ほど、本校への入学を許可いたしました一八一名の新生生の皆さん、入学おめでとう。皆さんの入学を心から祝福し、歓迎いたします。

本校は、大正三年四月、綾歌郡立綾歌農業学校として設立され、昭和二十三年には学制改革により、香川県立飯山高等学校として認可されました。その後、時代の変遷とともに学科の改編等を重ね、今年百八年目を迎える歴史と伝統のある学校です。校訓「真実にものを考える、ものを愛する、ものをつくる喜びに力と汗を惜しまない」という言葉には、その時、その場で何をすべきか、どうすることが適切なのかを自分で考え、判断し、常に周囲への感謝の気持ちを忘れることなく自主的に行動することで、新たなものを生み出すことの大切さを私たちに示してくれているのではないかと考えます。

さて、人生には「節目」といものがあります。皆さんは今、高等学校入学という大きな「節目」を迎えました。皆さんが経験した中学校卒業という「節目」では、共に過ごした人たちとの別れを乗り越え、慣れ親しんだ多くのもの、習慣、風景などを大切な「思い出」として自分の中に刻み込んだことと思います。古い扉を閉め、いくつもある新しい扉のうち飯山高校の扉を選んだ皆さんは、今日、新しい自分を生きていくために、その扉を開けました。そして、その扉には「挑戦」という言葉が記されています。本校は、自分の夢を実現するために努力を怠らず挑戦する生徒と、生徒の「大いなる明日」を見据えながら、生徒の挑戦を全力で支援する教職員が集う学校です。飯山高校の生徒として、自信と誇りを持ち、新しい学友と共に、夢の実現に向けて、一歩ずつ前に進んで行ってください。

世界人権宣言を起草したエレノア・ルーズベルトは「自分にはできないかも知れないという恐れに真正面から立ち向かうたびに、あなたは強さと自信と経験を勝ち取るのです。だから、できないと思うことに挑戦してごらん下さい。」という言葉を残しています。出口の見えない新型コロナウイルスとの闘い、信じられないことが起きている世界の現実を前に、皆さんには、ひるむことなく真正面から立ち向かい、自分の夢に向かって挑戦し続ける人であって欲しいと思っています。その上で、「3年間、本当によく頑張った」と、将来の自分から感謝されるような高校生活を送ってください。皆さんにとって、今日からの一日一日がどれだけ価値のあることか、しっかりと今の自分の心に言い聞かせてください。

専攻科に入学した皆さん、皆さんは五年一貫教育の四年生として、新たな気持ちで目標を高く掲げてください。日々進歩する医療現場において、命と向き合い、人のために生きるということは容易なことではありませんが、本校で自分を磨き、倫理観、使命観を身に付け、充実した学校生活を送ってもらいたいと思います。

保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。これまでお子様を育ててこられました皆様のご尽力に衷心より敬意を表すとともに、私共教職員に課せられた責任の重さに身の引き締まる思いでございます。皆様がお子様に寄せる思いを真摯に受け止め、私共教職員は、お子様の大きな成長を目指して、教育活動に取り組んで参ります。どう

か、本校の教育活動にご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。
待ちわびた春は、高校入学の、そして専攻科入学の希望の春。新入生二八一名の大いなる成長を祈りつつ、式辞といたします。

令和四年四月七日

香川県立飯山高等学校 校長 大平 徹